

「結婚セミナー」

－幸せな結婚生活をもたらす 7 つのポイント－

はじめに

(1) 未信者の結婚

(2) クリスチャンの結婚

① 幸せの三角関係

② 結婚の土台は神の主権

＊創世記 1 : 1

Gen 1:1 はじめに神が天と地を創造された。

＊詩篇 139 : 13

Psa 139:13 あなたこそ 私の内臓を造り／母の胎の内で私を組み立てられた方です。

③ クリスチャンの結婚観は聖書から出て来る。

＊クリスチャン同士であっても、信仰の内容を確認する必要がある。

④ この世は、聖書的結婚観を変更したいと思っている。

(3) アウトライン

① 結婚の定義

② 結婚の目的

③ 妻の義務

④ 夫の義務

⑤ 男性と女性の違い

⑥ 話し合うべき課題

⑦ 聖書の中にある手本

1. 結婚の定義

(1) 創 2 : 18

Gen 2:18 また、神である【主】は言われた。「人がひとりであるのは良くない。わたしは人のために、ふさわしい助け手を造ろう。」

① 人がひとりであるのは良くない。

② 女性は、助け手として造られた。

＊これは、傍にいる人、守る人、助ける人、という意味である。

③ 結婚の制度を作ったのは、神である。

④ 同性婚は、神の権威を否定し、人間の判断を神の位に置くものである。

⑤ 結婚とは、ひとりの男とひとりの女が、一体となるという契約関係入ることである。

2. 結婚の目的

(1) 創 2 : 22～24

Gen 2:22 神である【主】は、人から取ったあばら骨を一人の女に造り上げ、人のところに連れて来られた。

Gen 2:23 人は言った。／「これこそ、ついに私の骨からの骨、／私の肉からの肉。／これを女と名づけよう。／男から取られたのだから。」

Gen 2:24 それゆえ、男は父と母を離れ、その妻と結ばれ、ふたりは一体となるのである。

①女は男の助け手として、男のあばら骨から造られた。

②男女が一体になることによって、子どもが生まれ、家族が形成される。

③「結ばれ」はヘブル語で「ダバク」、ギリシア語で「プロスコラオウ」（マタ 19:5）。

＊霊的結び（2 コリ 6:14）

2Co 6:14 不信者と、つり合わないくびきをともにしてはいけません。正義と不法に何の関わりがあるでしょう。光と闇に何の交わりがあるでしょう。

＊感情的結び（雅 8:6～7）

Son 8:6 封印のように、私をあなたの胸に、／封印のように、あなたの腕に押印してください。／愛は死のように強く、／ねたみはよみのように激しいからです。／その炎は火の炎、すさまじい炎です。

＊意志的結び（マラ 2:16）

Mal 2:16 「妻を憎んで離婚するなら、／——イスラエルの神、【主】は言われる——／暴虐がその者の衣をおおう。／——万軍の【主】は言われる。」／あなたがたは自分の霊に注意せよ。／裏切ってはならない。

＊性的結び（創 4:1）

Gen 4:1 人は、その妻エバを知った。彼女は身ごもってカインを産み、「私は、【主】によって一人の男子を得た」と言った。

④結婚関係は、地上生涯が続く限り存続する（肉体が存在する限り一体である）。

⑤神が意図した結婚は、一夫一婦制である。

＊結婚関係の外での男女の肉体関係は認められない。

⑥夫は家族を守るという責任を負い、妻は夫を助ける。その結果、家族が栄える。

⑦祝された家族は、神の栄光の現れである。

(2) 2 コリ 11:2

2Co 11:2 私は神の熱心をもって、あなたがたのことを熱心に思っています。私はあなたがたを清純な処女として、一人の夫キリストに献げるために婚約させたのですから。

①結婚は、キリストと教会の関係を反映させた「型」である。

3. 妻の義務

(1) エペ 5:22～24

Eph 5:22 妻たちよ。主に従うように、自分の夫に従いなさい。

Eph 5:23 キリストが教会のかしらであり、ご自分がそのからだの救い主であるように、夫は妻のかしらなのです。

Eph 5:24 教会がキリストに従うように、妻もすべてにおいて夫に従いなさい。

- ①従うとは、盲目的な服従ではない。
- ②神は権威に基づく秩序を確立された。
- ③父なる神—キリスト—夫—妻
- ④妻が夫に従うのは、神の秩序に従っていることである。
 - *妻が夫よりも劣っているからではない。
 - *父なる神とキリストの間にあるのは上下関係ではなく、信頼関係である。
- ⑤妻は、ひとりの男性に従うのであって、男性一般に従うのではない。
- ⑥妻が夫に従うのは、キリストを愛しているからである。
- ⑦夫の能力や資質は、服従の根拠にはなっていない。
- ⑧妻の手本になるのは、教会がキリストに従っている姿である。

4. 夫の義務

(1) エペ5:25～30

Eph 5:25 夫たちよ。キリストが教会を愛し、教会のためにご自分を献げられたように、あなたがたも妻を愛しなさい。

Eph 5:26 キリストがそうされたのは、みことばにより、水の洗いをもって、教会をきよめて聖なるものとするためであり、

Eph 5:27 ご自分で、しみや、しわや、そのようなものが何一つない、聖なるもの、傷のないものとなった栄光の教会を、ご自分の前に立たせるためです。

Eph 5:28 同様に夫たちも、自分の妻を自分のからだのように愛さなければなりません。自分の妻を愛する人は自分自身を愛しているのです。

Eph 5:29 いまだかつて自分の身を憎んだ人はいません。むしろ、それを養い育てます。キリストも教会に対してそのようになさるのです。

Eph 5:30 私たちはキリストのからだの部分だからです。

- ①夫は妻の「かしら」である。「かしら」とは、権威を持っているという意味である。
- ②キリストが教会の「かしら」であるように、夫は妻の「かしら」である。
- ③夫は、キリストの愛（アガペの愛）をもって妻を愛するように命じられている。
 - *これは、人生の一大事業である。
- ④キリストの愛が、夫が見習うべき手本である。
- ⑤夫は、自分の妻を自分のからだのように愛さねばならない。
 - *それは、自分自身を愛することにつながる。

5. 男性と女性の違い

(1) 男性は、妻から評価されることを願う。

- ①妻は、夫を支配したいという無意識的支配欲があることを自覚する。
- ②妻は、言葉の管理に心を配り、肯定的な言葉を発する。

- ③仲違いした際の歩み寄りの言葉を受け入れる。
- (2) 女性は、夫から愛されていると感じたい。
 - ①夫は、具体的な行動によって愛を表現する。
 - ②継続して愛を表現する。
- (3) 男性は、妻が変化しないことを願う。
 - ①しかし、妻は変化する。
- (4) 女性は、夫が変化することを願う。
 - ①しかし、夫は変化しない。

6. 話し合うべき課題

- (1) 結婚生活のゴール
- (2) 実家との関係
- (3) 金銭管理
- (4) 家事・育児の分担

7. 聖書の中にある手本

- (1) アクラとプリスキラは、仲の良い夫婦である。
 - ①使徒の働きでは、常に 2 人の名前がいっしょに出てくる。
 - ②彼らは、良き人生のパートナーであり、神の国のための同労者である。
 - ③時には、妻のプリスキラ名前が夫のアクラよりも先に出て来る。
 - ④この夫婦の関係性が対等なものであったことがうかがえる。
- (2) 彼らは、献身的な夫婦である。
 - ①コリントにおけるパウロの伝道を助けた。
 - ②パウロは、書簡の中で彼らの名前を上げている。
 - * ロマ 16 : 3～4
 - * 1 コリ 16 : 19
- (3) 彼らは、状況に対応する柔軟さを持った夫婦である。
 - ①必要に応じて住む場所を変えている。
 - ②主のご用のためには、どこにでも行く覚悟が出来ていた。
 - ③ローマからコリントへ、コリントからエペソへ、エペソからローマへと移動した。
- (4) 彼らは、謙遜な夫婦である。
 - ①彼らは、アポロの足りない点を、公の場ではなく、個人的に指摘した。
 - ②隣人を辱めないように配慮するのは、成長したクリスチャンのしるしである。
 - ③この夫婦の信仰を手本として、自らの信仰生活を吟味するとよい。